令和４年３月

国立教育政策研究所委託事業

令和２・３年度　魅力ある学校づくり調査研究事業

調布市教育委員会指導室

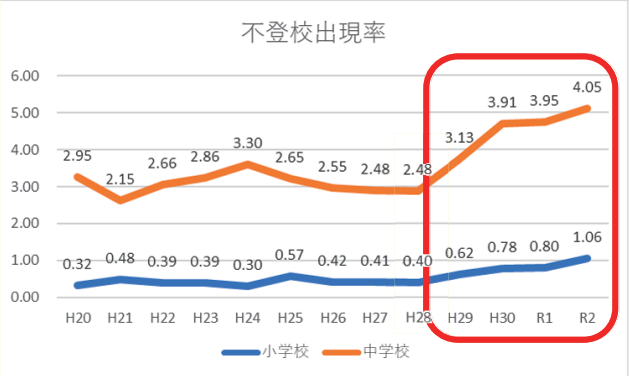
★魅力ある学校づくり調査研究事業とは？

新たな不登校児童・生徒を出さないことを目的に、年間を通して、集団指導の取組を点検・見直ししながら進めていく中学校区全教員で行う不登校対策の実践

不登校未然防止に焦点を当てた事業・・・なぜ未然防止なのか？

★調布市のこれまでの現状

※出現率＝不登校児童・生徒数÷児童・生徒総数×１００

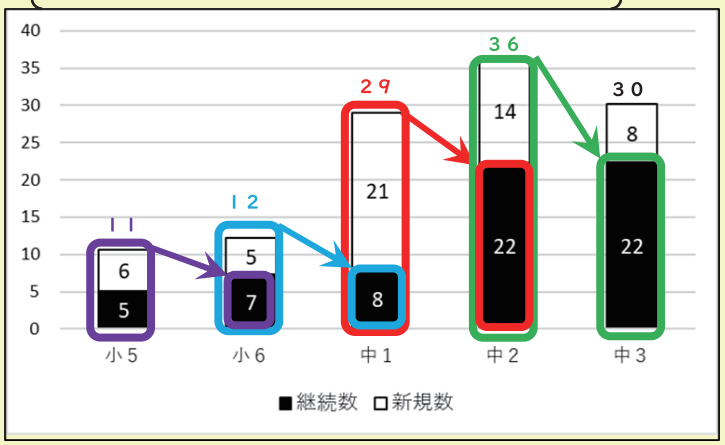


平成２９年度以降，増加傾向にあり，調布市における重要課題の１つとなる

★不登校の現状をさらに分析

平成２８年度から平成３０年度の不登校数を学年別に平均人数をとり，新規数と継続数に分けてみると・・・

※新規数：前年度は不登校ではなかった児童・生徒の数
継続数：前年度も不登校であった児童・生徒の数



登校復帰ができた児童・生徒数以上に新規数が多いため，不登校数が増加している。

未然防止をすることで不登校数を減らす

★魅力ある学校づくり調査研究事業を進めるにあたり，調布市における３つの柱

（１）不登校未然防止の取組

（２）集団指導の充実・共有

（３）小学校と中学校の連携

令和２年度は調布中学校区（第一小・石原小・調布中）をモデル校として実施

令和３年度は市内全中学校区で実施

コロナ禍の影響により令和３年度も調布中学校区のモデル校区のみで実施に変更

取組１　不登校未然防止の取組

① 居場所づくり・絆づくり

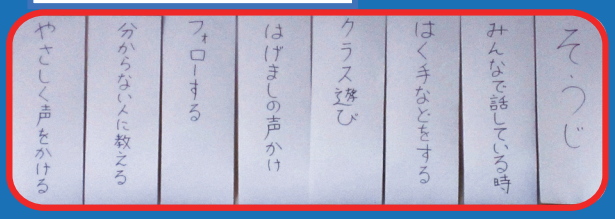
教員主導

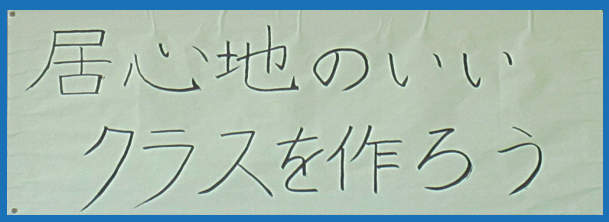
居場所づくり：学級や学校をどの児童・生徒にも落ち着ける場所にしていくこと

絆づくり：全ての児童・生徒が活躍し、互いが認めあえる場所を作ること

教員は場の設定のみで児童・生徒が主体的に活動

居場所づくりの取組例





クラス目標を設定するだけでなく，達成するためにやるべきことを掲げることで，見通しが持てるため児童に安心感を高めることができる

達成できていることを具体的に児童に示し，自信を持たせることで，落ち着ける場所を作り出す。

絆づくりの取組例

【例１：ハッピーフェスティバルの取組】

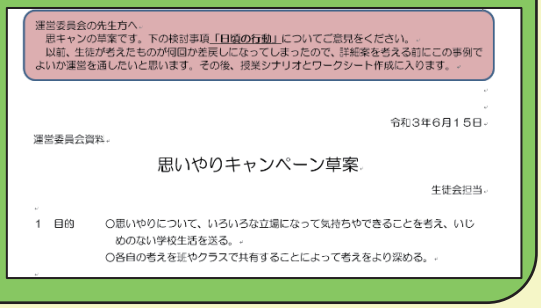
縦割り班活動において，コロナ禍でも何ができるのかということを，高学年を中心に児童同士で考える場を設定した。

できないことではなく，できることに目を向け，児童から意見を出させることで絆を深められた。

【例２：生徒がつくるいじめの授業】

いじめについての授業づくりを生徒が行う場を設定した。

生徒が授業を作ることで，主体的にいじめについて考えるようになった。



運営委員会の先生方へ
思キャンの草案です。下の検討事項「日頃の行動」についてご意見をください。
以前、生徒が考えたものが何回か差戻しになってしまったので、詳細案を考える前にこの事例でよいか運営を通したいと思います。その後、授業シナリオとワークシート作成に入ります。

令和３年６月１５日

運営委員会資料

思いやりキャンペーン草案

生徒会担当

１　目的　○思いやりについて、いろいろな立場になって気持ちやできることを考え、いじめのない学校生活を送る。
○各自の考えを班やクラスで共有することによって考えをより深める。

② 自尊感情測定尺度の活用

自尊感情とは
自分のできることできないことなどすべての要素を包括した意味での『自分』を他者とのかかわり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ち
（自信　やる気　確かな自我を育てるために【基礎編】東京都教職員研修センター　平成２３年３月）

＜２年間の概要＞

令和２年度

１学期末と学年末に自尊感情測定尺度のアンケートを実施し，児童・生徒の変化を見る → 実際に生かすことができなかった

令和３年度

不登校が最も出現するのが９・１０月のため，２学期当初に児童・生徒の状況把握のために活用 → 夏季休業日延長のため，理解にとどまり，次年度に生かすことになった

奈良女子大学　伊藤　美奈子　教授を講師として招聘し，ご指導いただく

令和２年１０月２９日
第２回不登校に係る支援委員会
「自尊感情・自己肯定感から子どもを理解する」

令和３年１０月２５日
第２回不登校に係る支援委員会
「自尊感情測定尺度を活用した児童・生徒の見取り」

取組２　集団指導の充実・共有

★不登校対応の３つの柱

未然防止
すべての児童・生徒に対する不登校にならないことを主目的とした取組
集団指導

初期対応（早期支援）
兆しの見えた一部の児童・生徒に対して不登校にならないことを主目的とした取組

自立支援（長期化への対応）
不登校状態の児童・生徒に対して行う社会的目的を主目的とした取組
個別支援

未然防止には「集団指導」が重要

「集団指導」とは，集団を高めることを意識して行う指導

不登校対応となると，個別支援を思い浮かべてしまうが，未然防止のためには集団指導が重

学年集団を指導するにあたり，学年教員の共有が重要

年３回のＰＤＣＡサイクルで指導の見直しと共有

★児童・生徒の意識調査及びＰＤＣＡシートを活用した指導の共有

・年３回（各学期末）に意識調査を行い，集団指導の振り返りを行う

ア　学校が楽しい
イ　みんなで何かをするのは楽しい
ウ　授業に主体的に取り組んでいる
エ　授業がよくわかる

４件法で実施
１　あてはまる　　２　ほぼあてはまる
３　あまりあてはまらない　　４　あてはまらない

１のみ集計して活用

１　学期の指導を意識調査直前に振り返り，児童・生徒がどのくらい「あてはまる」と回答するのかを予想

3	1 予想	2 結果
ア	７０％	５５％
イ	８０％	６８％
ウ	５０％	３７％
エ	５０％	４９％

2
意識調査を実施し，「あてはまる」と回答した割合を入力

3
児童・生徒と教員の感覚のズレを認識する

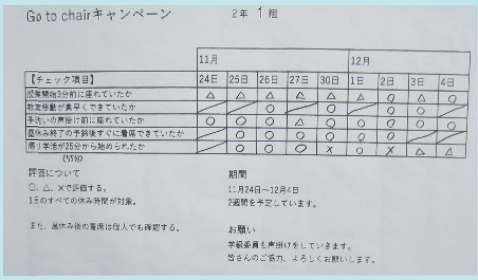
4
次学期に向けて，学年メモを用いて学年の指導の共有化を図る

学年教員で次学期に向けての指導の方向性を共有し，学年メモを作成して，職員室内に掲示する

指導の方向性が一致し，学級間の差が無くなる

指導の共有が，もしなかったら・・・

右の取組を，
Ａ先生は「居場所づくり」と考え，
Ｂ先生は「絆づくり」と考えてしまうことも…


Go to chairキャンペーン　2年 1組

【チェック項目】	11月 24日	25日	26日	27日	30日	12月 1日	2日	3日	4日
授業開始3分前に座っていたか	△	△	△	△	△	△	○	△	○
教室移動が素早くできていたか	／	／	○	／	○	／	○	○	／
手洗いの声掛け前に終えていたか	○	○	○	△	○	○	○	○	○
昼休み終了の予鈴後すぐに着席できていたか	／	○	○	○	○	○	○	／	／
帰り学活が25分から始められたか	／	○	○	○	×	○	×	△	△

（SSW）

評価について
○，△，×で評価する。
1日のすべての休み時間が対象。

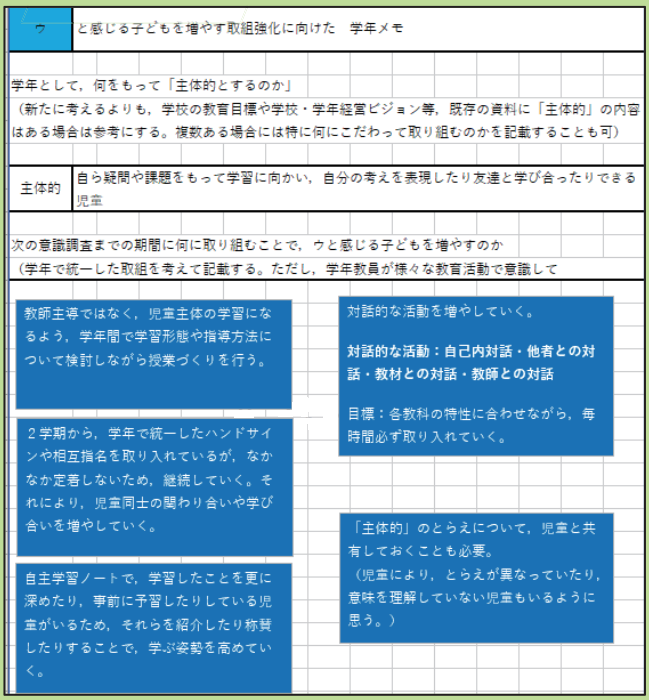
また，昼休み後の着席は住人でも確認する。

期間
11月24日～12月4日
2週間を予定しています。

お願い
学級委員も声掛けをしていきます。
皆さんのご協力，よろしくお願いします。

充実した集団指導にならなくなる

＜学年メモ＞


ウ　と感じる子どもを増やす取組強化に向けた　学年メモ

学年として，何をもって「主体的とするのか」
（新たに考えるよりも，学校の教育目標や学校・学年経営ビジョン等，既存の資料に「主体的」の内容はある場合は参考にする。複数ある場合には特に何にこだわって取り組むのかを記載することも可）

主体的　自ら疑問や課題をもって学習に向かい，自分の考えを表現したり友達と学び合ったりできる児童

次の意識調査までの期間に何に取り組むことで，ウと感じる子どもを増やすのか
（学年で統一した取組を考えて記載する。ただし，学年教員が様々な教育活動で意識して

教師主導ではなく，児童主体の学習になるよう，学年間で学習形態や指導方法について検討しながら授業づくりを行う。

２学期から，学年で統一したハンドサインや相互指名を取り入れているが，なかなか定着しないため，継続していく。それにより，児童同士の関わり合いや学び合いを増やしていく。

自主学習ノートで，学習したことを更に深めたり，事前に予習したりしている児童がいるため，それらを紹介したり称賛したりすることで，学ぶ姿勢を高めていく。

対話的な活動を増やしていく。

対話的な活動：自己内対話・他者との対話・教材との対話・教師との対話

目標：各教科の特性に合わせながら，毎時間必ず取り入れていく。

「主体的」のとらえについて，児童と共有しておくことも必要。
（児童により，とらえが異なっていたり，意味を理解していない児童もいるように思う。）

取組３　小学校と中学校の連携

★三校交流会の実施

	日時	内容
第１回	令和２年９月１６日（水）	魅力ある学校づくり調査研究事業の概要説明
第２回	令和３年１月２０日（水）	新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施 国立教育政策研究所　小野　憲　総括研究官よりご指導いただく
第３回	令和３年９月１５日（水）	夏季休業日延長による影響のため中止
第４回	令和４年１月２４日（月）	新型コロナウイルス感染症の影響により中止 不登校担当者のみオンラインで連絡会 国立教育政策研究所　小野　憲　総括研究官よりご指導いただく

・新型コロナウイルス感染症の影響により，三校の教員による共有ができない状況が続いた
・今後も同様のことが考えられるので実施方法も含めて改善していく必要がある。

★２年間の取組は不登校未然防止につながったのか

＜調布市の不登校の新規数・継続数＞

	令和元年度		令和２年度	
	新規数	継続数	新規数	継続数
小学校	58	41	78	41
中学校	55	103	76	95
合計	113	144	154	136

調布市全体では新規数が増加

	令和元年度		令和２年度	
	新規数	継続数	新規数	継続数
第一小	3	5	2	2
石原小	2	2	0	0
調布中	9	37	10	28
合計	14	44	12	30

調布中学校区のみ新規数が減少

＜令和３年１１月時点で１３日以上（不登校傾向）欠席した児童・生徒数（調布中学校区）＞

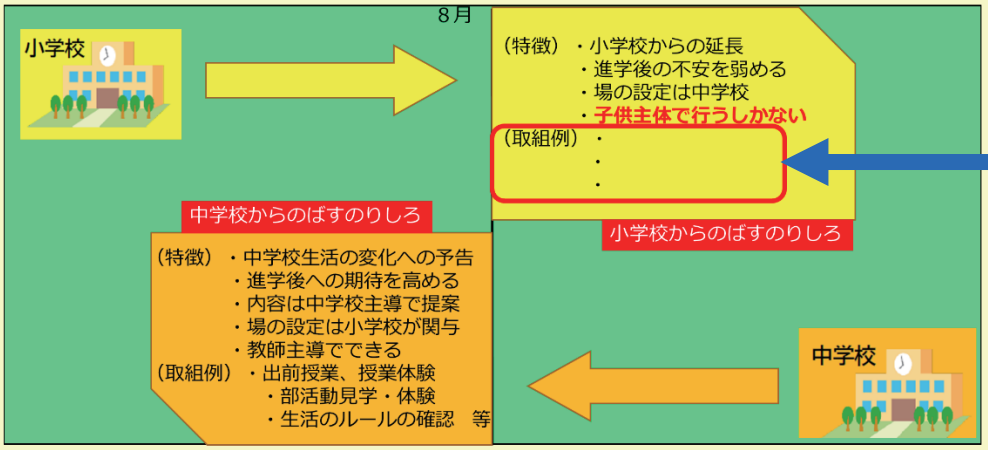
※１１月末時点での比較

年度	新規数			継続数			合計		
R１		17			44			61	
	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中
	2	1	14	6	3	35	8	4	49
R２		11			29			40	
	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中
	2	0	9	2	0	27	4	0	36
R３		25			22			47	
	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中	第一小	石原小	調布中
	2	5	18	1	0	21	3	5	39

各校の取組は令和３年度の方が充実しているはずなのに，このままでは新規数が増えてしまう可能性がある

中学校で増加傾向にあるため，小中学校の引継ぎに解決策を見いだせないか

・・・　１２月　１月　２月　３月　４月　５月　６月　７月　８月



中学校からのばすのりしろは各校充実していたが，小学校からのばすのりしろがない状況である

教師主導でできることに取り組む必要がある

３月の引継ぎで集団指導の引継ぎも行う

（参考）令和３年度　第３回魅力ある学校づくり調査研究委員会　配布資料

成果及び課題と来年度に向けて

＜成果＞
○　不登校未然防止のために集団指導に対する意識が高まった。
○　児童・生徒の意識調査を活用することで，教員の指導を振り返るＰＤＣＡサイクルができた。
○　市内では新規数が増加した中で，モデル校区での新規数が減少した。
○　モデル校区以外でも，児童・生徒の意識調査や自尊感情測定尺度を活用する学校が出てきた。

＜課題と来年度に向けて＞
○　モデル校区以外に対する事業理解の浸透を進めていく必要がある。
○　小・中学校ののりしろを構築していくため，小中交流会の在り方を検討する。
○　教員が異動等で入れ替わるため，事業理解の啓発は来年度以降も随時行う。
○　児童・生徒の意識調査の結果の活用についてより理解を深めていく。